

---

## ご退職なされる先生方からのメッセージ

### 岩本憲司



落語家をしている小学校の同級生の話によると—岩本君のお父さんに会ったとき、“うちのけんじには困ったもので、中国哲学とかいうわけのわからないものを始めたよ”とばやくので、“おじさん、ほくだって家の跡をつがずに落語家やってますよ”となくさめると、“落語家のがまだましだよ”という答えが返ってきた—そうです。このような父のエールをうけて跡見に就職してから36年、人生の半分を跡見で過ごしたことになります。ところが、じっくりふりかえてみても、ほとんど思い出らしきものがありません。人間、わるいことは覚えているが、よいことはすぐに忘れる、といいますから、この36年間、ほとんどよいことばかりだった、ということになります。事実、たっぷりと時間とお金を頂戴して、研究に没頭することができ、おかげで著書も、くぎりよく恰度10冊になりました。私のような研究至上主義者にとって、正直申しますと、大学は息抜きの場でありました。誰の助けもかりられず、ひたすら頭脳を消耗する孤独な研究生生活に疲れ果てたとき、大学に行けば仲間がいて、たとい会議であっても、共に語らいができる、今風にいえば、大いに癒されました。ただ一つ残念なのは、教授という名をもちながら、最後まで、所謂教育に興味を持てなかったことです。他人を向上させるひまがあったら、自分を向上させたい、というケチな根性からだと思います。そういえば、若い頃、建築をやめた理由も、人の家を建ててどうする、ということでした。自省はここまで。とにもかくにも、こんな小生に対する学科の皆さんの長年にわたる御交誼には、感謝以外の言葉がありません。本当にどうもありがとうございました。最後に、熊谷直実を気どらせてもらいます。—ア、三十六年も一昔、アア夢だ夢だ—。

#### 略歴

1947年 東京生れ

1972年 東京大学工学部建築学科卒業

1977年 早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒業

1982年 東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻博士課程修了

同年 跡見学園女子大学就職